

コンクリートライブラリー150
セメント系材料を用いたコンクリート構造物の補修・補強指針

正 誤 表
(第1刷対応)

2018. 10. 11

頁	行、図・表 番号	誤	正
小委員会 構成		彌永 敏明	彌永 穂高
小委員会 構成		FRPグリッド研究会	FRPグリッド工法研究会
13	下から15行目	により行うことを原則とする。	により性能照査を行うことを原則とする。
15	上から14行目	劣化要因の影響を低減するなど、処置の方法や領域を	劣化要因の影響を低減するなど適切な処置をし、かつ処置の方法や領域を
28	上から8行目	コンクリート表面に設けられた構内に	コンクリート表面に設けられた溝内に
37	上から8行目	JCI「マスコンクリートの温度ひび割れ制御指針2006」	JCI「マスコンクリートのひび割れ制御指針2016」
38	解説 表4.4.1 項目「収縮」欄	試験方法例 JIS A 6204：コンクリート用膨張材	試験方法例 JIS A 6202：コンクリート用膨張材
41	上から6行目	既設構造物に補強前から	既設構造物に補修・補強前から
41	上から8行目	補修補強を行う部材、	補修・補強を行う部材、
94	上から7行目	押抜き破壊	押抜きせん断破壊
99	上から4行目	既設部と増厚部および増厚部間	既設部と増厚部間、および、増厚部間
110	上から1行目	設計引張断強度	設計引張強度
111	上から17行目	[本編] 6.4.2.3に示すせん断力に対する照査	(2)に示す照査
113	下から1行目	考慮した	考慮して修正した
121	下から9行目	[施工編：標準]	[施工編：施工標準]
123	下から1行目	付着強度を適切な施工数量ごとに実施する。	付着強度を適切な施工数量ごとに確認する。
141	下から13行目	応力-ひずみ関係が異なる。	応力-ひずみ曲線が異なるものもある。
143	上から4行目	軸方向力を断面破壊の	軸方向力を受ける部材の断面破壊の
147	下から7行目	や降伏相当のひび割れ幅	削除
154	上から16行目	連続繊維補強材料	連続繊維補強材
157	上から11行目	引張弾性係数	ヤング係数
157	下から8行目	付着強度を適切な施工数量ごとに実施する。	付着強度を適切な施工数量ごとに確認する。

頁	行、図・表 番号	誤	正
161	上から8行目	「床版上面増厚設計施工マニュアル」	「床版上面増厚 工法 マニュアル」
162	参考文献2)	「床版上面増厚設計施工マニュアル」	「床版上面増厚 工法 マニュアル」
165	施工事例： 施工図面・施工 状況欄	不鮮明箇所	図1 施工断面図
203	表5.1	(耐用年数：既設橋の供用開始から52年)	(耐用年数：既設橋の供用開始から 55 年)
206	表5.3	(耐用年数：既設橋の供用開始から52年)	(耐用年数：既設橋の供用開始から 55 年)

(第1刷～第2刷対応)

2019. 2. 6

頁	行、図・表 番号	誤	正
116	解説 図6.7.1	補強材料のあき	補強材料の 間隔